



『マジス』はラテン語で、イエズス会のモットー「神のより大いなる栄光のために」を表しています。

教会テーマ『勇気と寛大な心をもって出かけて行きなさい』(教皇フランシスコ)―「ミッション2030」―祈りを深める

## ■マジスの今後について■

現在のスタイルは2009年(献堂10周年)6月から始まり、8年目になりますが、下記に挙げる理由により本号から暫くの間、掲載内容を縮小いたします。みなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

- ・マジス発行の具体的編集作業に奉仕していたメンバーに欠員が生じた。
- ・「ミッション2030」に伴い、マジスの内容を再考することにした。
- ・リニューアル時期を定めず、信徒のみなさんの意見を聞きながら新スタイルを模索していきます。
- ・「月の典礼と行事」「洗礼・結婚・転入・帰天」欄は別紙にて用意いたします。

## 列福のよろこび：右近、そして私たち？

教皇フランシスコは、昨年12月からの一般謁見演説にて、毎週毎週繰り返し「キリスト教的希望」について語られています。グローバル化した世界は、行き詰まった経済問題や急を要する環境問題を抱えながら、国家間の利益が複雑に絡み合い、一国だけでは解決が困難な状況にあり、さらに悲惨な事件や平和を脅かすような出来事が、私たちの社会に影を落としています。誰もが先の見えない将来に不安を感じ、自分たちの生活が脅かされるかもしれないという恐れを抱いています。それはキリスト者であっても変わりありません。教皇は「希望を失ったキリスト者を見るのは何と悲惨なことでしょう。希望の地平を見ることのできないキリスト者の心には壁しかありません。(2016年12月14日一般謁見演説)」とし、すべての人に希望が与えられるよう神に祈ることを求めておられます。

私たちは今年2月、ユスト高山右近が列福される瞬間に立ち会う恵みをいただきました。右近は戦国時代という激動の只中で、キリシタン大名であった父の跡目を継ぐと、天性の勇敢さと聡明さを存分に発揮し、類まれなる武將として華々しい戦功を挙げ、織田信長の信頼を得たことで、自由にキリスト教を布教し、多くの領民を導きました。順調と思われていたキリスト教の布教でしたが、豊臣秀吉がキリスト教の禁止に舵を切ると状況は一転、右近は大名の身分を剥奪され国を追われ、すべてのものを失い、流浪の生活を強いられるようになりました。しかし困窮していく生活にもかかわらず、信仰の熱意は失われるどころか、むしろすべての機会を宣教の場と受け止め、人々の救いのためにますます精力的に活動を続けました。流浪の生活の中で彼を支えたのは、父から受け継いだ篤い信仰心であり、また追放先である有馬や長崎でイエズス会司祭より受けた「霊操」を通して得られた、神への惜しみない開かれた心と、その神の招きに応えようとする情熱であったのではないのでしょうか。

私たちは今年、昨年の年間テーマを継続し、さらに深めていきたいと思えます。この「勇気と寛大な心をもって出かけて行きなさい」というテーマは、まずは外へと向かう宣教を思い浮かべますが、同

時に私たちの心の在り方も示しています。無条件で愛してくださる神の愛を曇らせ、力強い呼びかけに戸惑いを感じさせてしまうものは何でしょうか。心の狭さ、無力さ、自信のなさや気恥ずかしさ、拒絶への怖れ、日々の忙しさや疲れ、そして煩わしいことは避け、気休めを優先したいと感じる誘惑など、原因を挙げれば切りがありません。この誰もが持ち合わせている自分の傾向や生活への愛着をただ単に否定するのではなく、それらを祈りのうちにふさわしく整えることで、限界のある弱い自分と毎日の日々が、神から祝福されたものであることに気づき、自分の中において、神が自由に働かれておられることを実感できます。その時、人は臆することなく一歩を踏み出す勇気を持つとともに、様々な現実に対して寛大でいられるようになるのだと思います。創造主である神が、全人類の歴史だけでなく、私たち個々の人生までも導いておられるという確信は希望を生み出します。「希望は新しい地平を切り開き、想像もなかったことを夢見ることを可能にします。希望があるから、人々は不確かな未来という暗闇に入り、光の中を歩むことができるのです。(2016年12月28日教皇一般謁見演説)」。ともにおられる神への信頼が、私たち個人を成長させ、共同体としても成熟させていく、その力の源泉となるでしょう。

いつの時代であっても、人は本物の生き方を求めています。多くの人々の心を惹きつけてやまなかった右近の生き様は、どのような世の中、境遇であっても、最後の瞬間まで希望を持って生きることが可能であることを証明しています。私たちはこの福者ほどの徹底した神への従順、あらゆるものから解放された潔さ、際限なく人々を慈しむ心を十分に持ち合わせていないかもしれませんが、この列福の喜びを味わいながら、少しでも右近に倣っていきけるよう、願っていきましょう。

どうか一人一人の中で聖霊が働かれ、神が思いのままに私たちをお使いくださいますように。

佐々木 良晴

## ミッション 2030

### 祈りを深めるグループ 年内のおもな活動

- 「ミッション 2030 と祈りを深めるセミナー」  
(毎月第2主日/16時~/ヨセフホール/  
\*ただし12月は休み)
- 「祈りのとりなし隊」のスタート
- 「聖体礼拝」(毎月第3金曜日/19時~/ザビエル聖堂)
- 「聖歌を歌おう」(毎月第2金曜日/16時~/ヨセフホール&ザビエル聖堂)
- 「リビング・ロザリー」(10月29日・日曜日/  
15時~/芝生)
- 「教会黙想会」(2017年11月23日・木曜日・祝日)  
テーマ:ミッション2030の精神をキリシタン時代の  
実例に学ぶ  
指導:川村信三神父(イエズス会・上智大学文学部  
史学科教授/専門・キリシタン史)
- 「聖フランシスコ・ザビエルの取り次ぎを願う9日  
間の祈り」  
(11月24日・金曜日~12月2日・土曜日)

## 10月の共同祈願

主よ、私たちの日々の活動を祝福してください。  
私たちのすべての働きが祈りのところで始められ、  
神への賛美となり、人びとの助けとなっていきますように。

### 朝の祈りにおいて:恵みを願って一日を始めよう

今日一日のすべての活動・働きを主にささげましょう。

ただ自分のために働くのではなく、  
神への賛美となるように願いましょう。

今日、大きな仕事がある人も、  
日常のいつもの小さな用事をする人も、  
たとえ寝たきりの人であっても、  
今日のすべての働きを主にささげます。

### 晩の祈りにおいて:今日一日の活動をふりかえってみよう

神への賛美と人への奉仕になったことがあったでしょうか。

その点を神に感謝しましょう。

自分のエゴや苦しみに囚われてしまったことが  
なかったでしょうか。

その点を神に素直に謝りましょう。

そして、明日のすべての働きがみ旨にかなうものとなるように  
願いながら、1日を終わらしましょう。

## 「ミッション 2030」 — 祈りを深める⑤

### 愛をこめて生きる

ある雑誌の仕事で、シスター渡辺和子さんにお話を伺ったことがあります。インタビューも終わりに近づき、読者へのメッセージをお願いしたところ、アメリカ留学時代の経験を話してくださいました。

「修道院の食堂で夕食のためのお皿を並べていたとき、こんな仕事つまらない、渡米前はもっと大きな仕事をしていたのに、と思いつつやっていたのです。すると先輩のシスターが来て、『同じお皿を並べるのだったら、その席に座る人に対して、お幸せに、神さまの祝福がありますように、と祈りながら並べてご覧なさい』と言われたのです。ハッとさせられました。つまらないと思いつつ仕事をしたら、その時間はつまらないものになってしまいます。でも、祈りの、それも自分にしかできない愛を込めた祈りをしながら生きていけば、どんな仕事にも意味を見出すことができるようになります。自分が変わり、生き方そのものが変わっていくのです」

この話はいくつかの本に書かれており私も知っていましたが、そのときその瞬間、特別な言霊を持っているかのように私の心に響き、「愛を込めた祈りをしながら生きていきたい」という思いがあふれ、涙がぼろぼろとこぼれてしまいました(インタビュアーとしては失格ですが)。

私は平日のミサの先唱をさせて頂いています。平日の先唱者は聖体拝領の際、司祭の後方で会衆を見守る役目を仰せつかっていますが、私にはずっとそれが重荷でした。監督者のようで身の程知らずに感じられるからです。しかしシスターの話を知ってからは、その時間を会衆の方々のために祈ることに使おうと決めました。「今日も良い一日を」「笑顔で来てくださってありがとう」「また来週も会えますように」。毎週そう祈っているうちに、お一人お一人の顔がはっきり見えるようになりました。そして、神によって教会に導かれ、共にミサを捧げられることの喜び。私たちがこの同じ時代に共に命を授かり、ここで生きているという神秘、その偉大な御業への畏怖と感謝。そうした思いが日毎にふくらみ、聖体拝領の時間は私にとって格別に恵み豊かなものになったのです。

日々の労働には単調なものも少なくありません。疲れているときの仕事や家事、奉仕には、つらさが伴うこともあります。しかしどのような仕事も祈りによって神への捧げものになり、同時に、それを行う者の心に幸せと喜びの火を灯してくれるのだということを、シスター渡辺は私に教えてくださいました。シスターは帰天されましたが、この教えは特別な輝きをもった宝ものとして、私の心の内で生き続けています。

マリア リタ テレジア 星野和子



**JOYFUL ASIAN YOUTH!  
LIVING THE GOSPEL IN MULTICULTURAL ASIA**



日本代表団全員とインドネシアの仲間



エネルギーあふれる帰国報告会を終えて

アジアユースデーは、アジア約28カ国のカトリック教会青年代表およそ2000人が集い、ホスト国の文化・社会と教会の福音的な取り組みに触れながら、典礼、体験学習、ホームステイ、文化交流、自国紹介など、8日間共に祈り、共に学び、信仰を生きるアジアの仲間と出会い、お互いの連帯と信仰を深めるアジアの青年大会です。今回はその第七回目の大会で、インドネシアのジョグジャカルタで開かれました。様々なプログラムを通し、今大会のテーマ「Joyful Asian Youth! Living the Gospel in Multicultural Asia! アジアの若者よ、多様性あふれたアジアの文化の中で、福音を喜んで生きなさい!」を深めていきました。日本からは22名の若者が参加し、そのうちイグナチオ教会から7名の信徒が派遣されました。7月末に日本を出発した私たちは、本大会が始まるまでプルワカルト教区にて、タイ、インドネシアの信徒と共に、約3日間、教区での日々を過ごしました。その後、ジョグジャカルタに移動し、アジア各国の信徒と共に約5日間に渡り大会に参加してきました。

## 価値ある体験

今回私がAYDに参加したのは、多種多様な文化背景を持つ人たちと共に福音に生きることにより、自分自身の信仰を深めたいと望んだためです。

イスラム教が優位にあるインドネシアという国で感じたアジアの青年たちの情熱の強さに感銘を受けました。



ホストファミリーとの夕食のひと時

ミサ、ホストファミリーとの日々、講話やワークショップ等を通して、自分の信仰は、唯一で絶対的である神様とその教会の中にあるのだと改めて感じる事ができました。そして、自分たちが青年として、世界平和にどう働きかけていけるか、社会的不正義に終止符を打ち、この母なる大地を守るにはどうしたらよいのかということに繋がっていくのだと思います。

この機会を本当にありがたく思いますし、ひとりひとりの青年がこのような、人生の転機となるような経験ができるよう勧めたいです。

信仰と教会の未来は、青年にあります。

神様のお恵みがカトリックの青年たちにありますように。

Ishmael Dzigbordi AZIATI

(インターナショナル青年会、英語ミサ聖書朗読)

## クリスマスバザー 11月26日(日)

8時30分のミサ終了後～15時頃まで

クリスマスバザーの目的は、さまざまな困難な状況にある人々を支援する活動団体に対する献金です。困難に立ち向かっている人々のために祈りながら、いろいろな形でクリスマスバザーに奉仕いたしましょう。

★頒布品としての献品受付：10月15日(日)～11月12日(日)

中古衣料と賞味期限切れの食品は不可。詳細はポスター、チラシにてご確認ください。

クリスマスバザー実行委員会

## 幼児洗礼式

10月8日(日) 10時ミサにて

今回は18名の子供たちが神様に祝福されます。子供たちが神の子として大きく成長できるように、みなさんと一緒に祈り、お祝いしましょう。

## 教会黙想会

テーマ：ミッション 2030の精神をキリシタン時代の実例に学ぶ

指導：川村 信三 神父（イエズス会・上智大学史学科教授）  
日時：11月23日（木・勤労感謝の日） 10時～15時  
場所：主聖堂

## 結婚感謝ミサ

10月29日(日) 10時ミサにて

「肝心なのは、愛すること、傷つくまで与え尽くすこと」

(マザー・テレサ)

神の秘跡に与った時を思い出し、これまで共に歩んできたこと、これから共に歩むことを、みなさんで感謝し祈りましょう。

金婚式、銀婚式を迎えられた御夫婦へのバチカンからの祝福記念証書授与もこのミサの中でいたします。

## 九州北部豪雨災害支援のための献金

本年7月の九州北部豪雨災害支援のための献金を7月16日、23日、30日の各日曜日に行いました。みなさまからの献金額722,053円を日本赤十字社で受け付けている義援金へ送金いたしました。

ご支援とご協力、ありがとうございました。



### 2017年 教会学校キャンプ

上段左：土曜学校【キャンプに参加した子供たち30人と班の旗】

上段中：中学生会【水遊びの後でもパワー全開】

上段右：侍者会【河原にて洗礼の更新。気持ち新たに。】

下段右：日曜学校【お天気に恵まれ、みんな水鉄砲を構えて、全力で走り回りました。】

下段左：高校生会【人数は少ないけど、とても濃い3泊4日でした!!】

### ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel

7:00 / 12:00 / 18:00 (Japanese)

(土曜日 18:00 は主日ミサ)

【日曜日 Sunday】主聖堂 Main Chapel

7:00 / 8:30 / 10:00 / 18:00

(Japanese)

12:00 (English) / 13:30 (Español)

Xavier Chapel 16:00 (Indonesian)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Main Chapel 15:00 (Việt Nam)

Mary Chapel 12:30 (Português)

16:00 (Polish)

主任司祭：佐々木良晴

助任司祭：英 隆一郎

(アルファベット順) ギユンタ・ケルクマン

田丸 篤

協力司祭：平林冬樹

ヘネロン・フロレス

ハビエル・ガラルダ

シスター：アイダ・センチノ

(セントロ・クラベール)

イベッテ・サンチェス

(セントロ・ロヨラ)

アヴェリーノ・アウレア・ピスナー

(ジョン・デブリット イングリッシュセンター)

## カトリック麴町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102-0083 千代田区麴町6-5-1

TEL 03-3263-4584 FAX 03-3263-4585

ホームページアドレス : <http://www.ignatius.gr.jp>